

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ながよ
（ユニット名）	3階 （ゆうあい）
所在地 （県・市町村名）	長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷592-1
記入者名 （管理者）	永田 寛
記入日	平成 20年 1月 11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「安定と軽減そして穏やかな生活」と5つの基本方針がある。	(基本方針) ①人としての尊厳を重視 ②ゆったりと楽しい家庭的な雰囲気づくり ③ささえ愛で、暮らしの喜びと自信 ④いつも同じ、なじみの環境 ⑤私たちは、グループ内で役割を持ち、適切な介護の継続と適切な受診及び利用者が穏やかで普通の日常生活が維持できるよう援助している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	私たちは、理念を基本として各階の独自のカラーを大切にしながら実践している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には、入所時に説明しあらゆる時には、そのつど連絡を取り報告している。地域の方々には、年間をとうし(もちつき)など参加してもらい入居者との関わりを持つ中で理解してもらえる様努力している。	○ もっと地域の方と交流し親睦を深めたい(育成会、老人会、自治会等)
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日ごろ挨拶の徹底など行い、気持ちよくお話などが出来ていると思う。また玄関等には、手作りでの飾りなどを飾って近隣の人々を目を引いていると思う。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会との関わりを大切にする他、地域の保育所からの行事等での訪問など心よく受け、また相手側の行事(運動会)などに見学したり地域の交流に努めている。地域の小学生の体験学習の実施	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者等に対して日常生活において外部との交流や親睦を図っている(買い物、美容室、ドライブ等など)その時に地域の高齢者との会話をもち尚且つ居宅介護支援事業所にて地域への相談窓口としてサービスを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、あらゆる実態を外部から評価してもらい反省する所は、改善し前向きにレベル向上に努めている。また全職員が自己評価を行い、その集計し改善するべき点や不備を明らかにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表やご家族の代表や市町村の担当者等をお招き経営者、管理者、リーダー等が参加し意見交換を実施し向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場が近くにあいいい立地条件のもと相談や質問などあった時には、活躍している。また介護保険の更新時のときには、直接窓口にもって行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がいます。(2F)		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、常に見過ごされがないう、管理者や職員は、講演や勉強会など参加し考える機会を設けている。		職員に対しストレスからくる虐待の予防として気持ちのリフレッシュをさせたいという運営者の考えもあり、年に1回(7日間)の休暇制度を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等には、施設長や担当になされている人が行い。利用者のご家族に十分に説明出来る様に心掛けている。解約時の時には、管理者やリーダー等も参加してこれまでのご家族の意見等を聞きこれからの向上に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員が常に前向きな心で利用者の色々な気持ちなどを見てその事で会議やケアプランの見直しに活躍している。ただ利用者は、重度的な認知症なので意見、不満、苦情を言える方は、いない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の連絡メモなどに1月間の状態などをお手紙を送付し利用者の健康状態が変化した場合は、早急にご家族に連絡を徹底している。また金銭等も報告している、さらに利用者に各担当者を決め家族との連帯を図っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等などが面会に来た時に管理者及び職員は、ご家族からの意見や不満、苦情などが気持ちよく聞かれる様日頃からの信頼を図っている。また公的窓口も掲示し、紹介している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議やリーダー会議を開催し、施設全体の勉強会を行って提案を聞く場がある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成する前に職員に利用者の状況や受診、行事などを踏まえ勤務希望休を聞きリーダー及び管理者等が職員に無理な勤務体制にならない様に配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者としては、ユニットの質や各職員の性格など分かっているがバランスよく体制に心掛けていて利用者にダメージを防ぐ配慮している。また異動は、できるだけ避け、なじみの顔がいなくなるのが利用者にとって良くないことは、理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会での事例発表、課題発表を各階割り当てをおこないレベルの向上を図る。また外部研修会の参加、個人資格取得への推進を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、グループホーム同業者同士の勉強会を開催しさらに交流が出来るように様々な活動に参加しサービスの質を向上させている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減する為には、我が会社は、リフレッシュ休暇や有給休暇などを設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、現場などに足を運び状況を把握している。また各リーダーからの情報を取得している。それ以上に職員一人一人が運営者に対してコミュニケーションを図っている。この事に対して各自の向上心を持って働けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談が発生した時から本人との交流を深め各ユニットに合うリーダーとの検討を行い。入所された時には、職員全員で本人との親睦を図り、すぐに楽しい生活が送られる様に心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個人ファイル等などにご家族から書いてもらい尚且つ管理者を初めとして全職員がご家族から色々な相談を聞き入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどうゆう性格かどんな趣味を持っているのか早急に明確し家族との連帯を図りながら対応している。また他施設への紹介・他サービスの利用等様々な可能性を考慮し本人・家族にとって最適なサービスを提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共同生活において他の利用者との親睦を深めその時にご家族ともに参加してもらいそのつど相談しながら提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活において必要な準備などタオルたたみ、洗濯たたみなど職員ともお互いに協力して関係を深めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間を通じて様々な行事などにご家族も参加してもらい職員と共に利用者を支えていく関係を築いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族は、本人を施設に預けただけでは、なく本人の要求などが発生した時には、ご家族に相談しながらご家族と本人との交流を作っあげている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人それぞれに故郷や実家などに帰りたいと要求などがあり、その時は、不満を与え無いようにご家族との協力しながら対応している。また人間関係に対しては、お手紙や電話等での対応を実施しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	高齢者に対して日常生活リハビリ等を取り入れたり、また行事などにお互いに協力して孤立せずに支援を行っている。また日中には、リビングにて過ごしてもらう様に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここ施設にご利用されその後、退所された方などにも面会に行ったり電話等にてご家族との会話を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員にて3月間、一度のケアプランの見直しを開催している。また状況に応じて見直しを実施している。(入院など)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの把握に対しては、ご家族からの提供をしてもらい、全職員にて検討しサービス提供を行っている。毎日の介護日誌等にて詳細に残している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	綿密な介護日誌を記録し全職員が把握出きる様にしている。また職員同士が伝達出きる様に申し送りなど確実に実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	我が施設では、認知対応であり本人は、参加は、不可能である。現在では、全職員にて話を行って介護計画を作成している。	○	今後は、なるべくケアプランの見直しの時には、ご家族に参加してもらい高度的な介護計画書を作成したいと思う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3カ月に1回、介護計画の見直しを行っている。もし状態が変わったりした場合、直ちにカンファレンスを開催し介護計画書の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき発言、行動、表情、個別記録に残している。個別記録は、介護計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じて柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防は、非難訓練や緊急時に協力してもらっている。長与保育園からの交流、長与小学校からの体験学習を受け入れたりしている、またボランティアは、積極的に受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性がある様であれば他の利用するための支援は、ある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターと協働する準備は、ある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の納得の上かかりつけ医を設定しなおかつ緊急搬送先も決定している。また状態の変化に伴い、医療機関の変更に対してもご家族と相談している。		

グループホームながよ ゆうあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各主治医が認知症だと認識しており、相談や診断、治療をこころよくしてもらっている。緊急時な時でも往診する医師や歯科医師も確保している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の体調不良の時とか、いつもと状態変化があった場合は、事業所内の看護師に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人の状態を見守りながら、ご家族の方と相談しながら、主治医や医療ソーシャルワーカーと連携を図り、早めの退院ができる様行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族とかかりつけ医との話し合いが欠かせないと思われる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	この事に対しては、運営者と職員と話し合っ決めている。本人の為に必要な医療的ケアや穏やかで生活できる場がある場合は、一番よい方法をとりたいと思っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活情報や心身のあらゆる情報を移り住む医療機関や施設へ出向き情報交換をしたり、書面や口頭で申し送っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方々は、人生の先輩として心がけて、言葉掛けに対しても敬意を表している。記録等の個人情報は、人目に触れない所で保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご家族などに可能な限り説明し努力している。(ご家族の不安、疑問をなくす為)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々は、マイペースに自由に生活している、ただし寝る時間や起きる時間に対しては、生活リズムを整える援助も必要と思われる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者が行きたい理容・美容には、決めており、そのつど職員が予約し実施している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者との同じ食事を頂いている、また同じテーブルにて会話をしながら楽しい食卓を実施している。その上、献立に対して食べたい物を聞き献立に役立てている。入居者が出来る事は、準備を手伝ってもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつに関しては、毎日違ったおやつを提供し糖尿病の人が多く飲み物に対しても健康にいい物(豆乳)など提供している、またお酒も夕食時の時に飲みたい人には、提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	人それぞれ排泄のリズムがあり、また安全な排泄環境を職員で検討し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3Fは、火、木、土と週3回に決めているがその以外に希望があれば入浴を楽しんでいる。また時間帯もそのつど決めず、入居者に対して入浴提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に合わせていつでも休息したり、眠られるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝には新聞たたみ、手拭きタオルたたみなど出ることが役割になっている。また日々の日付けの交換を習慣となっている。職員からは、このような場面を作り考えながら提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人には、職員がサポートし出来ない人には、預かり金として預かっており、いろんな時に使われるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	人それぞれに行きたい場所がある時は、不満を持たせずに連れて行く様にしている。(買い物、実家、散歩)など		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が行きたいところやご家族が行きたいところを把握しており、行動的が円滑になる様に職員が参加して支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙等に関しては、そのつど要求があった時には、職員が直ぐに対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者等がきやすい環境を作り、楽しい時間が出来る様に心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束はしないという強い信念を持っており、身体拘束は行ったことがない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者やご家族の方に心理的圧迫をもたらさないよう基本的に施錠はしていない。入居者が落ち着かず外へ出ようとする時には、それを阻止せず、散歩や行きたいところへ連れて行くように対応している。日中は、玄関に施錠せずに配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	第一、本人のプライバシーに常に配慮し、また昼夜通して所在や様子を職員は、把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(薬、洗剤、刃物)は、入居者の目に入らない所に保管場所を設置している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	この階には、喫煙者がおられ喫煙場所を決めている、また本人には、ライターなどは持たせずに、こちらで保管管理している。その以外の事故防止対策としてカンファレンス・ミーティングを開き防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	我が勉強会にて消防所から参加してもらい応急手当や初期対応の訓練をしたり、外部の研修会にて緊急対応に参加している。ただ定期的には、実施していないのが現状である。	○	ミーティング等に取り組んで行きたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	我が事業所は、年2回の消防訓練を実施し初期消火・避難誘導・通報・消防器具使用説明等を受け、訓練内容もそのつど変化をつけて訓練に取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族には、起こり得るリスクについては、早めの説明を説明を行っている。その上でご家族との対応策を一緒に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックの際、(血圧・体温・脈拍)を測定している。その時異常があった場合は、早急に受診をしている、また職員は、一人一人の特徴をつかみ異常のサインを早期に発見する様に努力している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者一人ひとりの服用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また薬の変更などがあった場合、ほう・れん・そうの連絡用紙に下記職員に周知徹底を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として繊維を多く含む食べ物を提供し、またトイレ介助時に腹圧をかけてもらったり、腹部マッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の人は、火・木・土には、ポリデントを使用し自分の歯のひとつには、毎週金曜日に歯科の往診に来てもらって口腔ケア施行してもらい、チェックしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、入居者の一人ひとりの摂取量を把握しており、内容としては、たくさんの材料を使いバランスよく提供している、また水分摂取に関しては、脱水症状が発生しない様にこまめの提供を心掛けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者・全職員にインフルエンザの予防接種を受けてもらい、また感染対策委員会が感染症を発生させたい為の具体的予防対策や感染症と疑わしい場合は又発生した時の対応についてマニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板・包丁などは、毎日ハイターにて消毒殺菌を徹底している。また新鮮で食材管理に勤めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関等には、季節感を現す花などを置き、(ディサービス)より利用者が手作りの置物を飾り親しみやすく暖かい雰囲気になるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間はとてもゆったりしており家庭的で置いてある物に対しても家庭的な物にしている、音の大きさには十分に配慮し照明は日差しの強さに応じ、カーテン等も使い調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には入居者同士が集まる居場所の確保としてリビングにソファやこたつなどを置き楽しい空間作りに取り組んでいる。また廊下にはいくつかの椅子を置き休まれる様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居した後にも必要な(家具・椅子・テーブル・テレビ)などご家族の方と話しを行い持ってきている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気を心がけ、冷暖房は過剰に使用していない。また、乾燥しないように湿度にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の低下、変化に伴いPバーや滑り止めマットの設置、本人の為になるように安全かつ出来るだけ自立した生活が送られる様に常に工夫を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはトイレマークを取り付けている、居室の前に手作りの名札のどを掲げており、混乱や失敗を防止している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダなどには、体操される方がおられたり、日なたごっこをなされたりしている。また花壇等も作り明るい環境に生かしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームながよ ゆうあい

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)